

5 被害の概要

東海豪雨災害では、愛知県において 20,000 世帯を越える床上浸水など、甚大な浸水被害が生じている。そこで本章では、回答者の家屋や家財の被害状況について把握する。また、本章では、家屋や家財に対する災害保険の加入状況についても併せて提示する。

5.1 家屋被害

Point

- ・いずれの地域においても、半数近くの世帯で家屋の破損被害が生じている。
- ・また、災害から約 1 ヶ月ほど経過した本調査の実施時点で、60%以上の世帯ですでに修理を行ったとしており、修理を行う予定を合わせると約 90%に達する。
- ・いずれの地域においても、解体を行うつもりはないとする回答が 80%近くを占めているものの、西枇杷島町、西区、天白区では、解体を行った、もしくは解体を行う予定であるとする回答が、他地域に比べて多くなっている。

(1) 自宅の破損被害

東海豪雨災害における、回答者の家屋の被害状況を示したものが図 5-1-1 である。

- ・家屋に何らかの破損被害が生じた世帯は 65%に及び、新川町を除く地域では、その割合が 50%を越える。
- ・特に、西枇杷島町においてその割合が高くなっており、被害の甚大さが伺える。

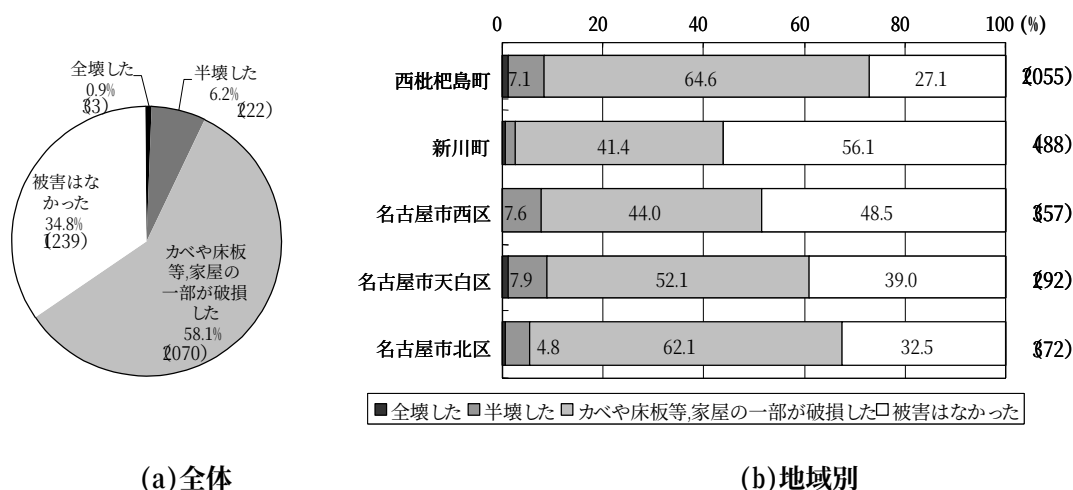


図 5-1-1 自宅の破損被害

(2) 自宅の修理状況

(1) において家屋に何らかの被害が生じたと回答した世帯についての、本調査実施時点での家屋の修理状況を示したものが図 5-1-2 である。

- ・災害から約 1 ヶ月ほど経過した本調査実施時点で、いずれの地域においても、60%以上の世帯ですでに修理を行ったとしており、修理を行う予定を合わせると約 90%に達する。大きな地域差は見られない。

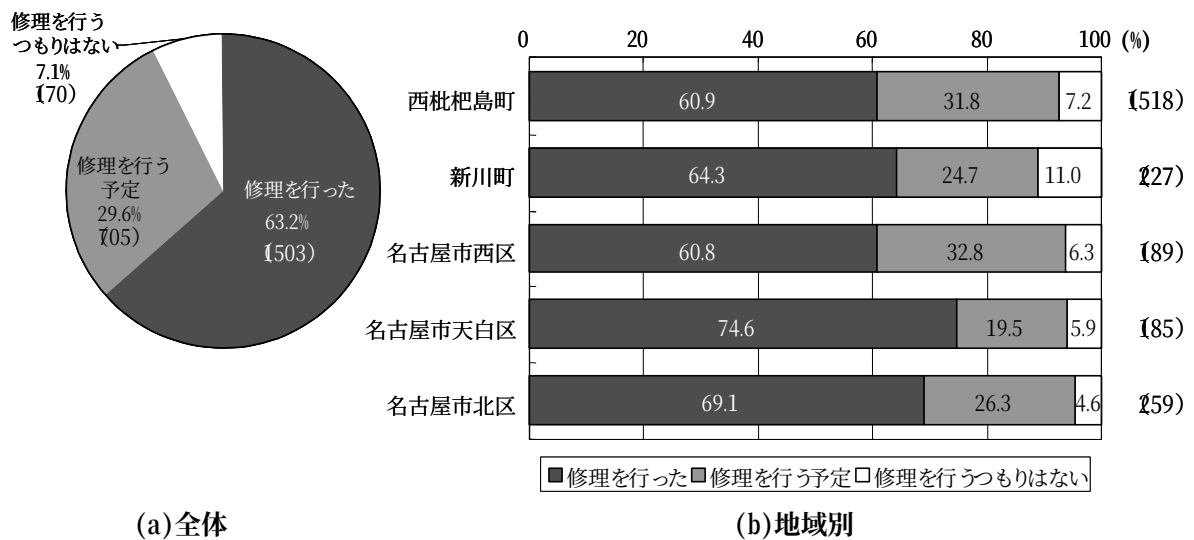


図 5-1-2 自宅の修理状況

(3) 自宅を修理した時期

(2) において、すでに自宅の修理を行ったと回答した世帯について、自宅を修理した時期に関する回答を示したものが図 5-1-3 である。

- ・本調査の実施は、災害から約 1 ヶ月ほど経過した時点であることから、調査実施時点において修理中という回答が半数近くを占めている。

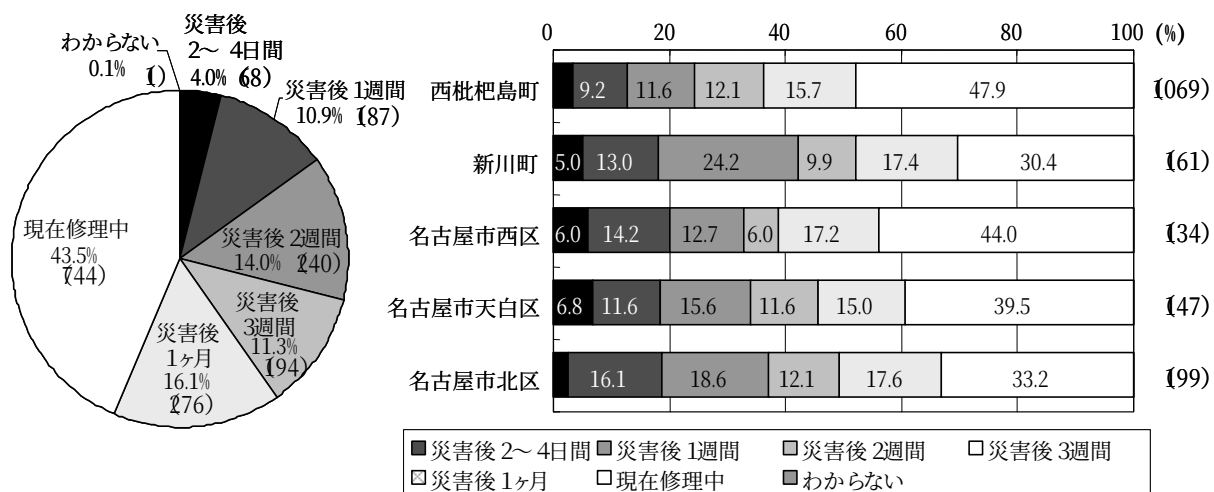


図 5-1-3 自宅を修理した時期

(4) 自宅の解体作業

(1) において家屋に何らかの被害が生じたと回答した世帯についての、自宅の解体に関する状況を示したものが図 5-1-4 である。

・いずれの地域においても、「解体を行うつもりはない」とする回答が 80% 近くを占めているものの、西枇杷島町、西区、天白区では、「解体を行った」、「解体を行う予定」であるとする回答が、他 2 地域に比べ多くなっている。

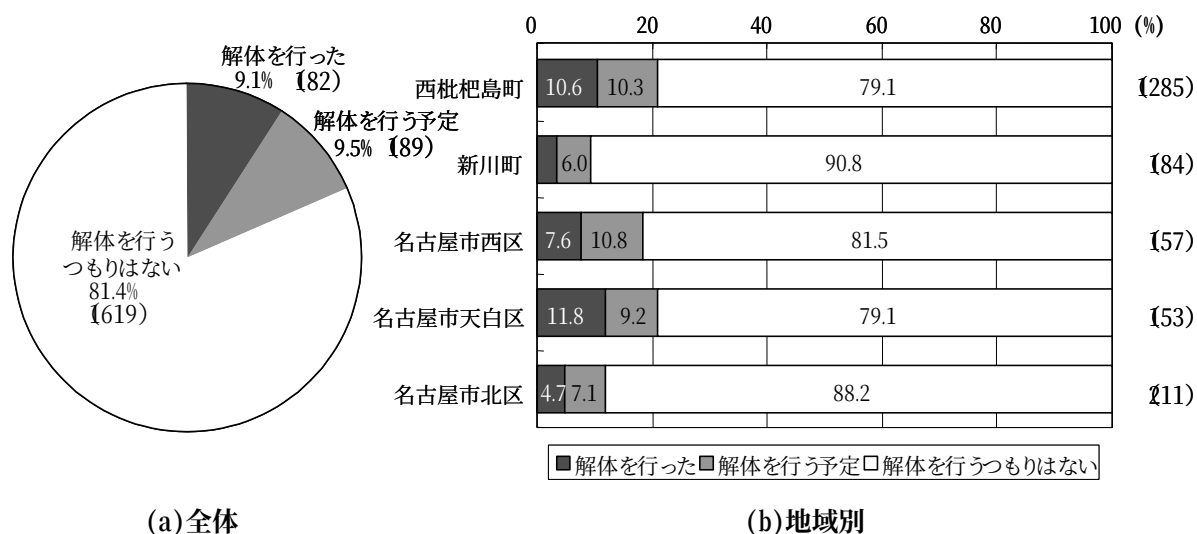


図 5-1-4 自宅の解体作業

(5) 自宅を解体した時期

(4) において自宅の解体をすでに行ったと回答した世帯についての、解体の時期に関する状況を示したものが図 5-1-5 である。

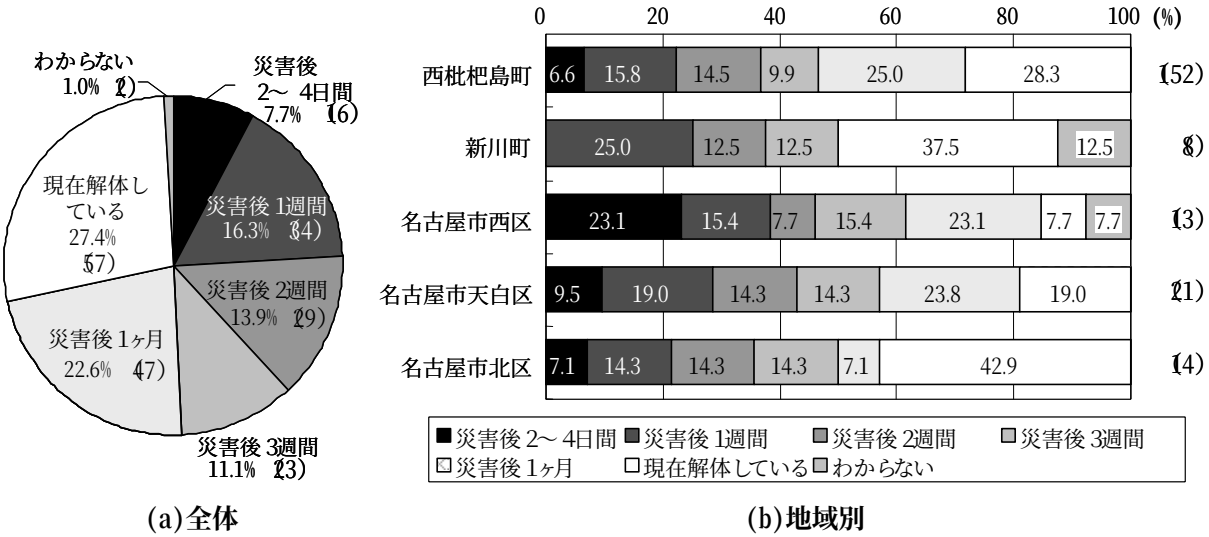


図 5-1-5 自宅を解体した時期

5.2 家財被害

Point

- ・西枇杷島町において、家財の被害があったとする回答が多くなっている。
- ・家財被害は、台所・居間などの1階部分にある家電製品やタンスなどの大型家具を中心に多品目にわたっている。
- ・貯金通帳などの重要書類、ペット、などについての被害は比較的少ない。

ここでは、図 5-2-1～図 5-2-5 に示すような 20 項目の家財の被害について、その回答状況を地域別に示す。なお、ペットに関しては、被害の有無に関わらず、その種類を合わせて質問しているので、その回答状況についても併記している。

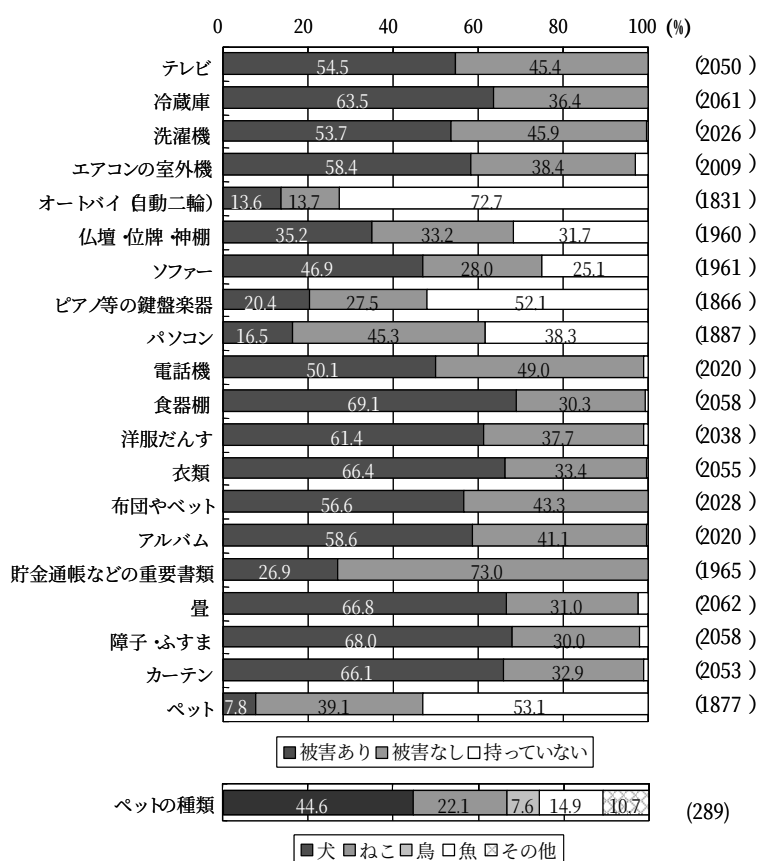


図 5-2-1 西枇杷島町における家財の被害

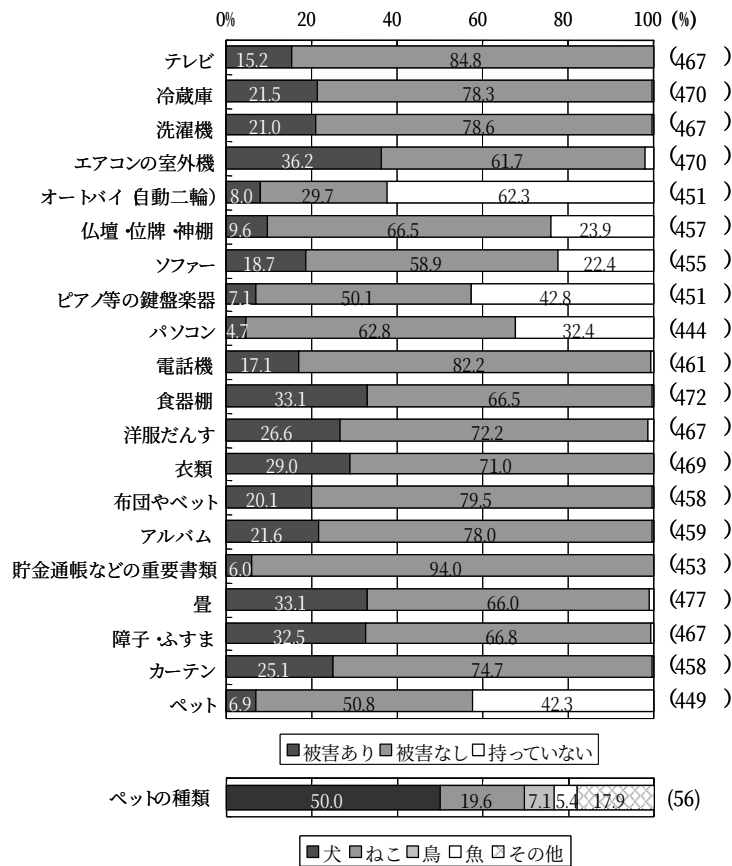


図 5-2-2 新川町における家財の被害

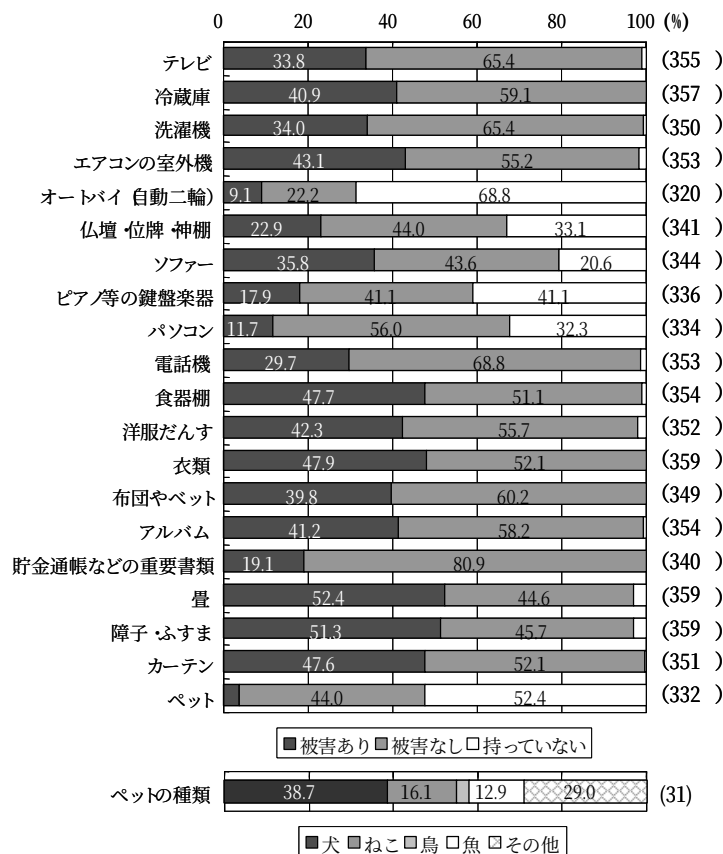


図 5-2-3 名古屋市西区における家財の被害

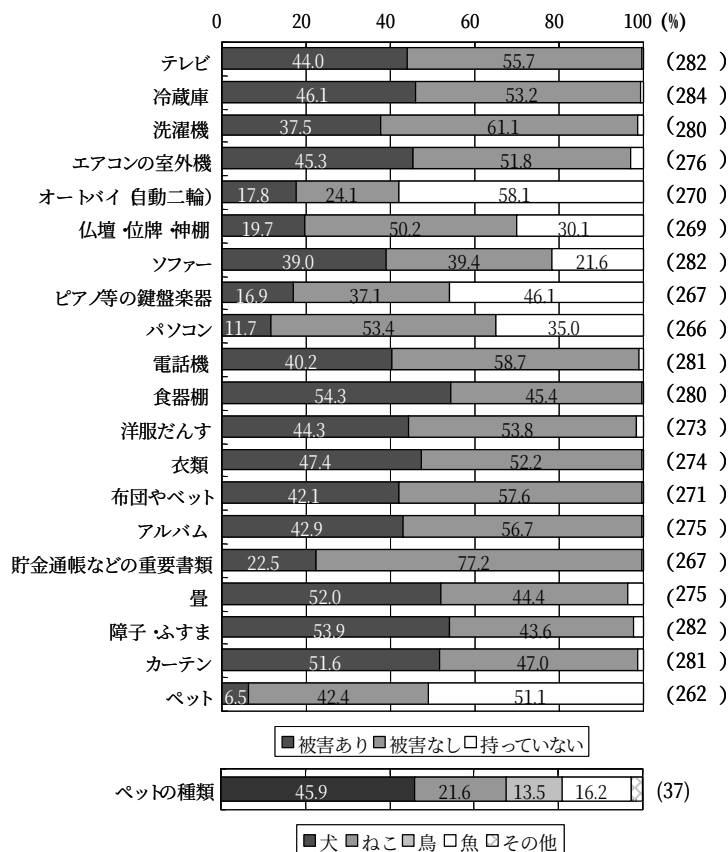


図 5-2-4 名古屋市天白区における家財の被害

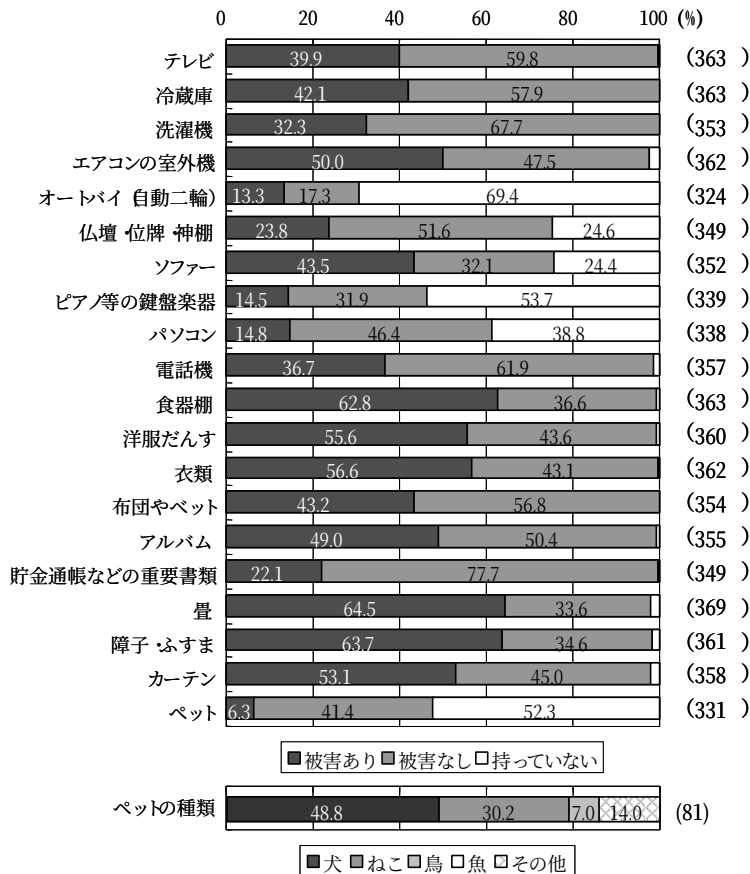


図 5-2-5 名古屋市北区における家財の被害

5.3 自動車被害

Point

- ・調査対象地域の各地域ともにほとんどの世帯で自動車の被害を被っている。
最も少ない新川町で 61%、その他の地域では 80% 近くの世帯が自動車の被害を被っている。
- ・そのほとんどは駐車中に被害を被っており、修理不能の状態で廃車にした、または、その予定の世帯との回答がほとんどを占める。

(1) 自動車の保有

図 5-3-1 は、回答者における災害当時の自動車の保有状況を示したものである。

以下では、災害当時に自動車を保有していた世帯について、自動車の被害状況を把握する。

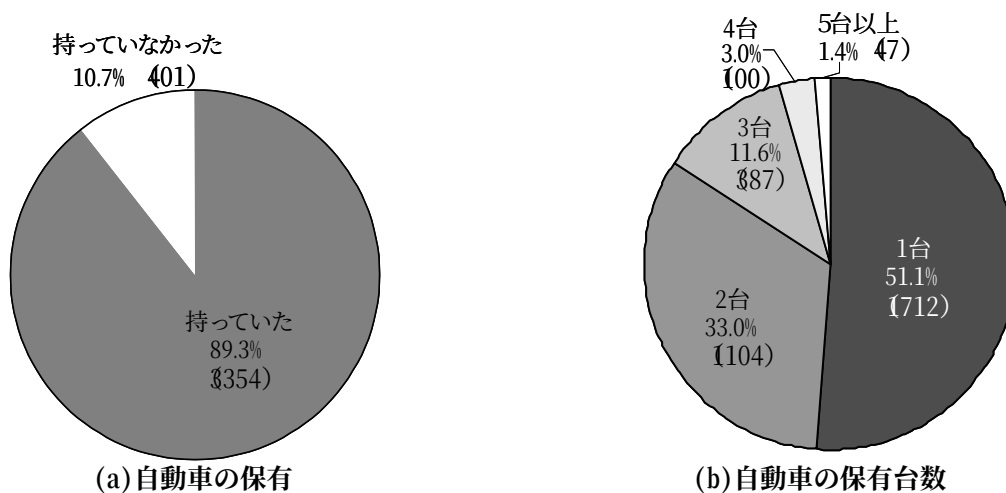


図 5-3-1 車の保有状況

(2) 自動車被害の有無

(1) で災害当時に自動車を保有していたと回答した世帯についての、自動車の被害の有無に関する回答の状況を示したものが図 5-3-2 である。また、図 5-3-3 は、被害を受けた自動車の台数についての回答を示したものである。

- ・各地域ともに、自動車の被害を免れた回答者の占める割合は少なく、被害を受けたとする回答が最も少ない新川町で 61%、その他の地域では 80% 近くないしは、それ以上の世帯が自動車の被害を被っている。

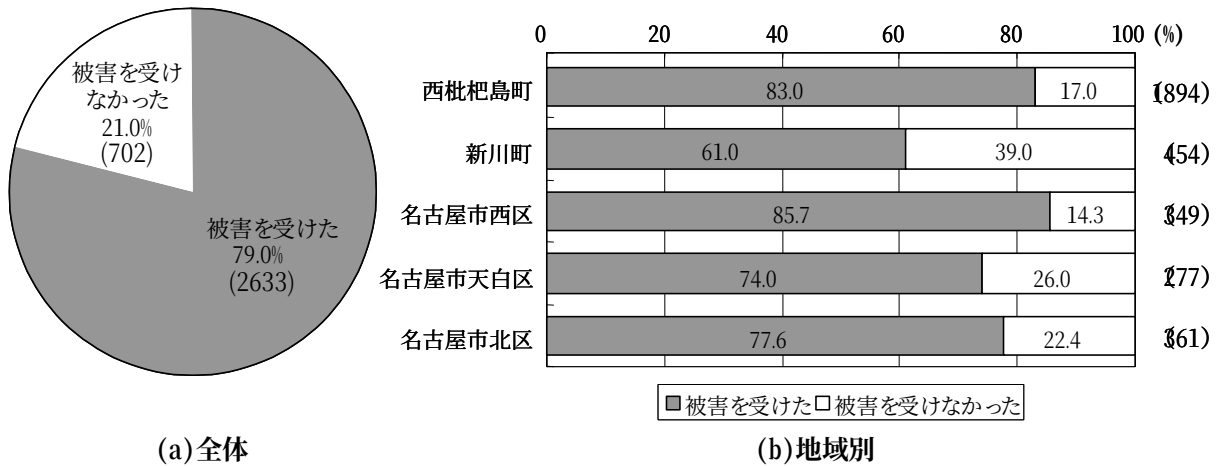


図 5-3-2 自動車の被害の有無

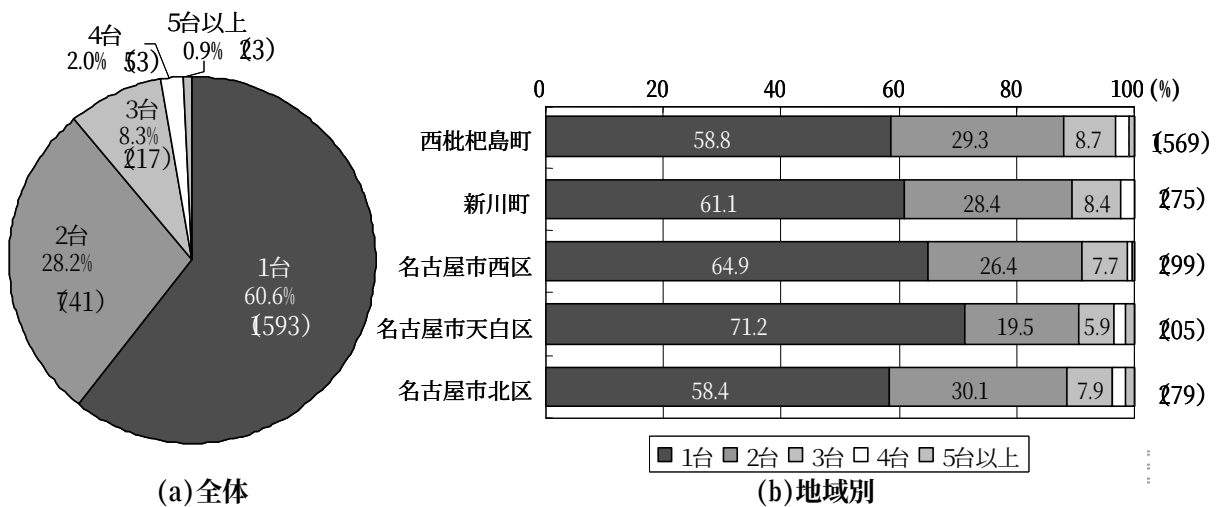


図 5-3-3 自動車の被害台数

(3) 被害を受けたときの状況

図 5-3-4 以降に示す図は、被害を受けた車の台数を母集団としている。図 5-3-4 は、(2)において自動車の被害を受けたと回答した世帯について、その被害を受けたときの状況について示したものである。

- ・自動車の被害を受けた世帯のほとんどが、駐車中に被害を受けている。
- ・自動車は、高価な家財であり、移動しやすい家財であると同時に、避難時の移動手段でもあることから、一般には洪水時に住民がまず行う行動のひとつとして自動車の移動が考えられる。しかし、これらの結果を見る限りでは、このたびの災害における浸水被害は深夜に生じたことや、その進展が速かったことなどから、多くの世帯が自動車の移動を行う余裕がないままに、他の家財とともに被害を受けた様子を伺うことができる。

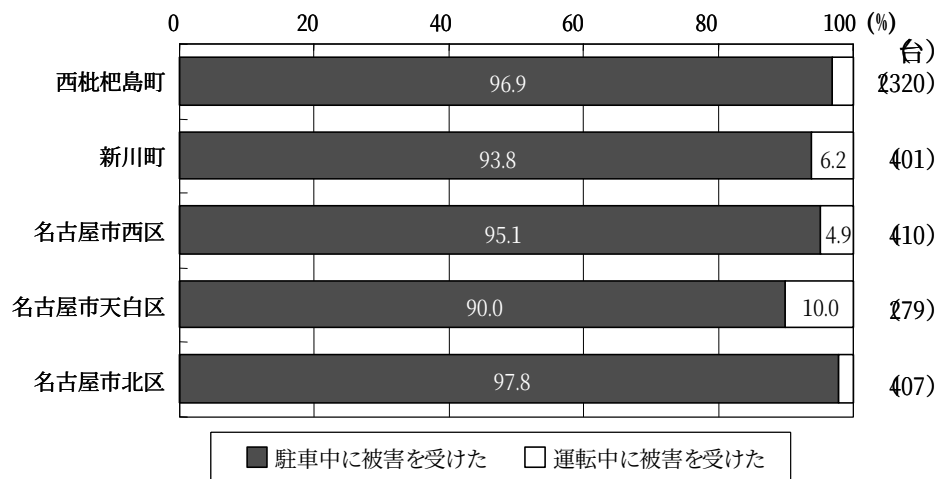


図 5-3-4 被害を受けた状況

(4) 自動車浸水の程度

図 5-3-5 は、(2) において自動車の被害を受けたと回答した世帯について、各世帯が保有する各自動車の浸水被害の程度について示したものである。

- ・全地域とも「半分くらい浸水」や「屋根まで浸水した」という回答がその多くを占め、被害が甚大であった様子がわかる。特に、西枇杷島町や名古屋市西区、天白区では「屋根まで浸水した」との回答が過半数を占めている。

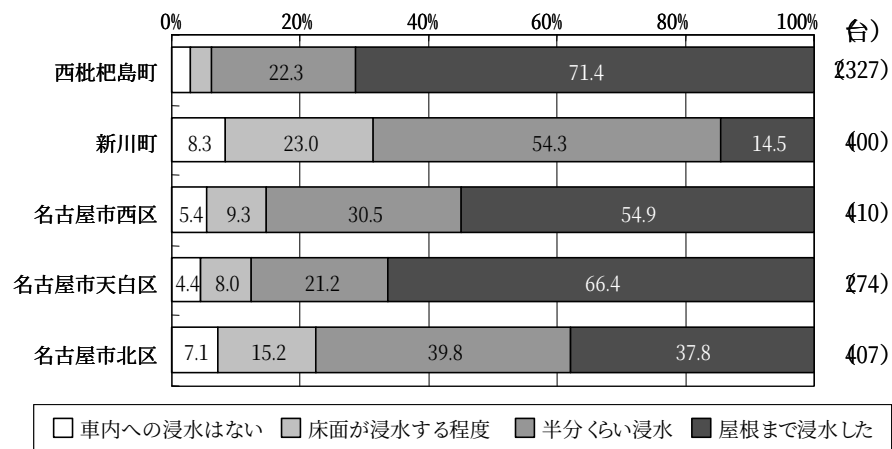


図 5-3-5 自動車浸水の程度

(5) 浸水後の車の状況

図 5-3-6 は、(2) において自動車の被害を受けたと回答した世帯について、浸水被害を受けた後の自動車の状況について示したものである。

- ・いずれの地域においても、「修理不可能」とする回答が多くを占めている。

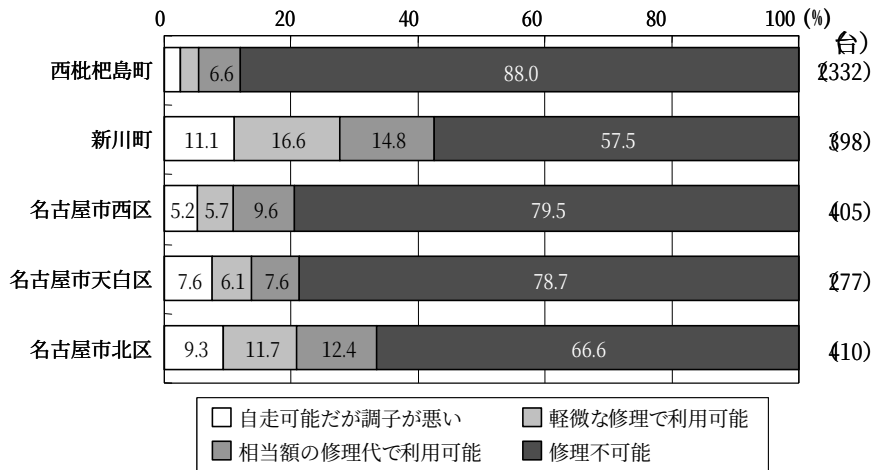


図 5-3-6 浸水した自動車の修理

(6) 現在の利用状況

図 5-3-7 は、(2) において自動車の被害を受けたと回答した世帯について、浸水被害を受けた自動車の現在の利用状況について示したものである。

- ・これによると、いずれの地域においても、「廃車にした、またはその予定」とする回答が多くを占める。

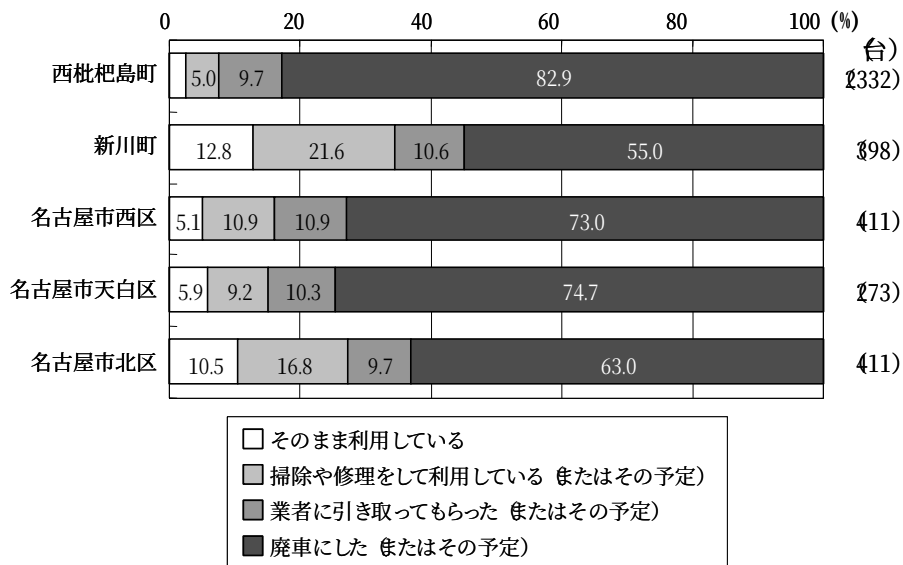


図 5-3-7 浸水した自動車の処分

5.4 保険の加入状況

Point

- ・調査対象地域の世帯における、浸水に備えた家屋の保険の加入率は約 50%、家財の保険の加入率は約 40%、車両保険の加入率は約 63%となっている。

(1) 保険の加入状況

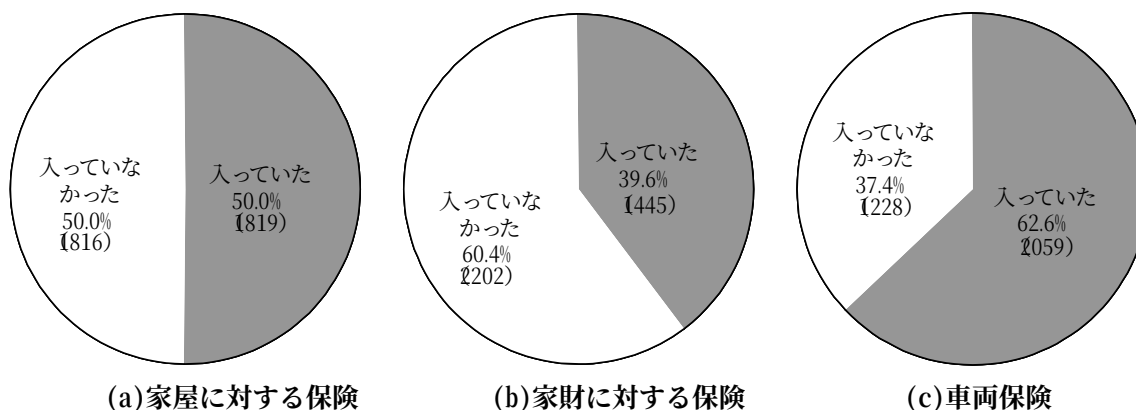


図 5-4-1 保険の加入状況

(2) 家屋に対する保険

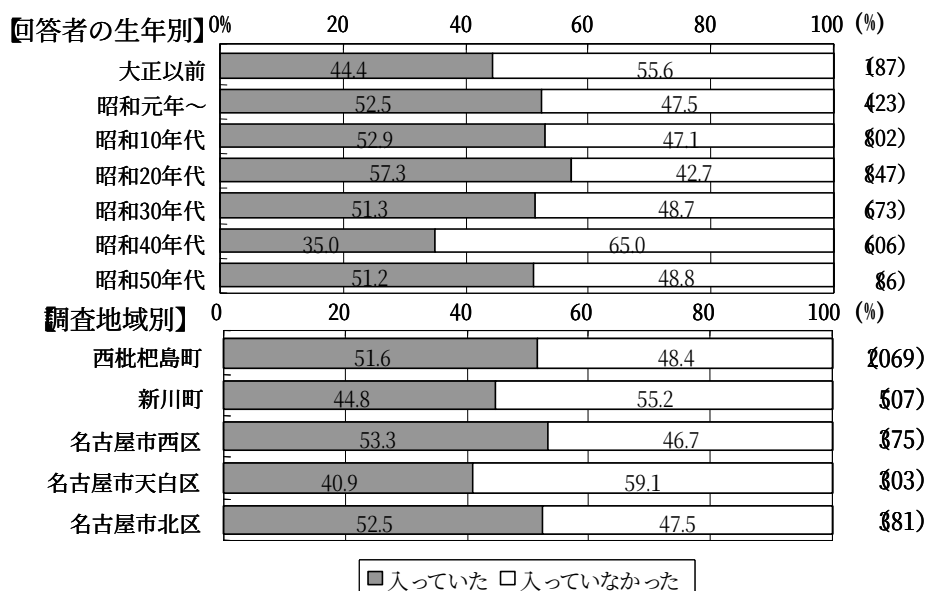


図 5-4-2 生年、調査地域別家屋に対する保険の加入状況

(3) 家財に対する保険

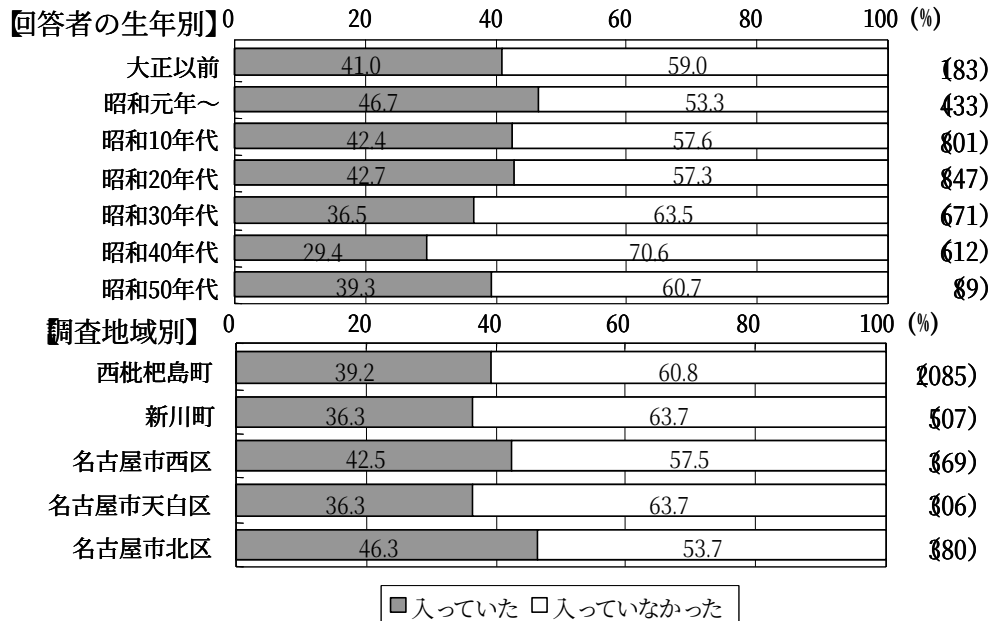


図 5-4-3 生年、調査地域別家財に対する保険の加入状況

(4) 車両保険

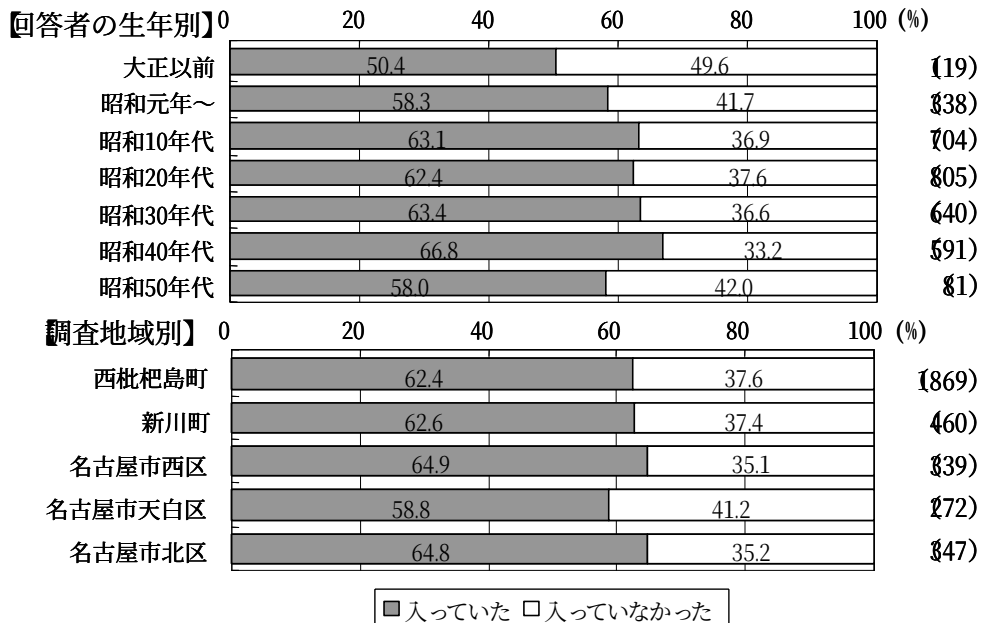


図 5-4-4 生年、調査地域別車両保険の加入状況